



JCNA 通信第 18 号

発行日 2015.8.28
発行人 西村晶子
編集人 西久保秀子
創立 1957(S32)年
会員数 250 人
(2015.8 現在)

2014 年度テーマ

生きる意味を問う ～祈り、喜び、感謝して～

日本カトリック看護協会 会長 西村晶子

会員の皆様には、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

今回は、まず、悲しいお知らせを申し上げなければなりません。JCNA を創立された井深八重さんの遺志を継ぎ、25 年もの長きにわたり、会長として会のためにご尽力くださった水野しづ様が、7 月 3 日に天国に旅立たれました。たくさんの思い出と共に、水野会長をしのび、お祈りいたしましょう。そして、これからの日々を、信仰にしっかりと根ざした水野会長のように、JCNA 会員として歩んでいきたいと思えます。

ホームページのリニューアルもされました。このことは、今年度はじめに示しました「業務整理と、本部のスムーズな運営の道筋を作ります」という本部方針が、しっかり実行された結果と思えます。特に通信では、各支部活動短信、顧問司祭のご紹介、特集他を通して、各支部間の交流、支部と本部の交流に役立つものになってほしいと願っております。

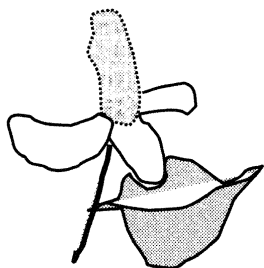
JCNA が加盟する日本カトリック医療団体協議会会議が 6 月 20 日、東京聖母病院で開催されました。ここでは、「3 団体は、今後より一層協力して活動しましょう」ということが確認されました。特に 2015 年開催予定の、第 57 回 JCNA 全国大会 in 広島、第 51 回 JCMIA 全国大会 in 熊本、第 31 回カトリック医療関連学生セミナー in 岡山、2016 年京都で開催予定の、第 16 回アジアカトリック医師会総会では、しっかり共同して取り組むことが確認されました。皆様もよりいっそうご協力くださいますようお願い申し上げます。

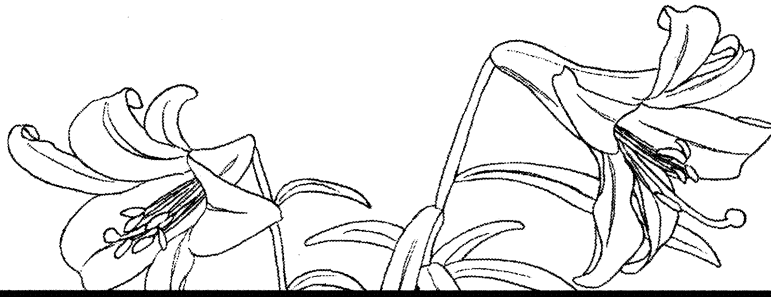
いよいよ広島大会が開催されます。被爆 70 年、戦後 70 年に関連したニュース報道は、毎日のようにテレビや、新聞で取り上げられております。特に『戦争法案』に関連したニュースはあちこちで問題視されています。改めて、平和を希求する私たち、そのために時代を生きる私たちの選択をしっかりと学び、平和の実現のために、カトリックナースとして共同し、行動できるよう取り組んでいきたいと思えます。

東京支部より、全国大会決算で余った予算は、カリタスジャパンを通して福島とネパール沖地震による被災地に寄付されるとの報告がありましたのでお知らせします。

共に繋がって活動していきましょう。

皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。





テレジア水野しづ元会長を悼む

I CICIAMS アジア地区大会と、水野しづ様

第4代会長 薄島和子

第20回の総会で荒井司教様と井深会長の辞任が伝えられ「20年と言えば子供でも成人します。皆さんでお続けください」という井深さんのお言葉が伝達されました。二代会長藤門政子氏から三代目会長を受け取ってくださったのが水野さまでした。それから JCNA 会長の任にあること 25年、「次の方に」と言い続けながら CICIAMS アジア大会の終了までは、と頑張ってくださいました。

大会開催 5 年前から始まった「大会準備委員会」は 50 回に及び、名古屋までの交通費や修道会に直接応援を要請するための経費も自弁で賄われました。たくさんの方にお会いしては大会の主旨を説明し、援助をお願いしてくださいました。町田市のご自宅の見積もりが「1 億円」という業者の声を聴いて「安心して開催準備にあたれます。大丈夫よ、皆さんきっと協力してください。最後は家を売ればすむのだから」と言われた水野さまの度量の大きさに感じ入ったものでした。お蔭で名古屋での CICIAMS 第 6 回アジア地区大会は無事に終わることができました。

水野さま、あなた様がいつも言われていたことの中に「井深さんに『カト看はつぶさないでね』と言われた」ということがあります。しかし今、JCNA は世の「高齢化と少子化」にも翻弄され、荒波の中にいます。あなた様からその任を引き継いだ私も力不足で、本当に申し訳ございません。しかしご覧ください。日本を飛び出して活躍できる方々が後を受け取ってくださっています。この方々が古き良き時代を足台に、医師会や医療協の皆様方と力を合わせて、医療の社会において人々の幸せのための福音化に向かってくださると信じています。どうぞ天国から井深さんと私たち JCNA を見守り、お助けください。水野しづさま、本当に長い間、ありがとうございました。安らかにお眠りください。

II 水野元会長を偲んで

前本部役員 河野小夜子

7 月 6 日、葬儀当日は朝から雨が降っていて足元も滑りやすく、視界も悪かった。早く着き過ぎ、参列者はまだ殆んどいなかった。記帳をしていると前に西村会長がいて、葬儀が始まるまで水野元会長の思い出にふけることが出来た。会場に飾ってある写真はとてにこやかで、私たちがやさしく包んでいるようだった。それはお元気なころを彷彿させるものだった。

町田教会はこじんまりとしていて、一般の参列者は少数で医療関係者らしき人々だった。殆どが家族で、皆に見守られながらとても静かな葬儀だった。教会の聖歌隊の歌声がゆったりと流れていて、亡くなられた水野元会長の生き方を偲んでいるようだった。

水野元会長の足が悪くなり車椅子の生活になった時、本部役員会の会場も見当たらなくなり困っていたら、町田の家を提供して下さった。

最後まで JCNA のために尽力され、ご家族に見守られながら生き抜かれた水野元会長に心から感謝をすると同時に長い人生の旅路を終えられた安らかなお顔にご冥福をお祈りいたします。

III

水野しづ様を悼む

元東京支部支部長 亀田玲子

水野様とは、その御親友と馴染みの小料理店で“打ち合わせ”と称し、度々“女子会”をしたのを懐かしく思い出します。水野様は冷酒が大好きで、いつも好みの酒肴を召し上がりながら JCNA の課題、高齢者福祉や看護界の将来、カトリックナースの役割等、熱く語り合いました。御自慢の息子様の御力も借りて、介護の参考書を出版されたり、大手企業のコンサルティングも手掛けられました。介護保険導入以前の早い時期から高齢者問題を注視され、先見豊かな福祉の専門家としての先駆けでもありました。水野様と東京支部とのかかわりの一部を振り返ってみると、1978 年第 20 回全国大会 in 東京、1994 年第 36 回全国大会 in 東京、2001 年第 43 回全国大会 in 東京があり、第 36 回と第 43 回開催時は私が東京支部支部長でした。ミーティングはいつも聖母病院の一室をお借りしていました。時々、足腰の痛みに悩まされておられましたが、一度も会合を欠席されたことはありません。多くの助言や発案を下さり、「相手を尊敬し『おもてなし』の気持ちを忘れることなく大会準備をするように」と繰り返し言われたのを覚えています。

いつも大らかで優しく謙遜であられた水野様の JCNA での活動と業績を今一度かみしめたいと思います。長い間の御指導を有難うございました。心からの感謝と御冥福をお祈りし追悼文と致します。

IV

故水野しづ様を偲んで

前副会長 Sr.沢禮子

最後に“感謝、感謝”を口にして静かに天に召された故水野元会長様、淋しくなりました。カトリックナースとして、医療、社会福祉に生涯を捧げつくされ、本当にお疲れ様でした。

憐れみ深い神様の御手の中で安らかに永遠に憩われますようにお祈り致します。

最初の出会いは、桜町病院の看護部長をされていた当時、心身ともに病んでいた一人の看護学生に温かく耳を傾け、寄り添い、自律させた時でした。その学生も、現在は平和な家庭を築き、看護師としても社会に貢献しています。また、聖マリアンナ医科大学病院の看護部長で多忙な頃、JCNA 本部役員会にりりしいユニフォーム姿で出席され、私に CICIAMS 関連の渉外担当を依頼されました。後に JCNA 第三代会長に就任され、歴代会長の役務を誠実に受けつがれ、会員の霊的向上、隣人への寄り添う看護を通してキリストの愛を社会の人々に伝える事をめざして、顧問司祭の御指導のもと、本部会員と共に、全会員を導いて下さいました。JCNA 決定機関の全国総会、又、年一度の全国大会は自ら率先して開催担当支部と連携を密にし、会員、非会員を問わず多数の参加者一同、キリストの福音を広める決意を新たにしました。

国際関係(CICIAMS)との係わりを大切にし、メルボルンで開催の世界大会へツアーの一員として参加の折に、ローマ本部会長 Mr.RAI からの再三、再四の要望に応えられアジア 17ヶ国の世界大会を名古屋で実施、多難を乗り越えて、盛会に終了。賛辞を得た蔭には神様への深い信頼をもって実行委員会を自らリードした、並々ならぬ努力と忍耐がありました。

左側大腿骨骨頭部の障害を持ち、不自由な歩行を、常に一本の杖を片手に歩みつづけ、穏やかに笑顔で人びとと交わって下さった、お姿を思い浮かべます。



これから、私たちは、JCNA は、何をしていくのか——。一人ひとりが真剣に祈り、考え、行動してこそ、水野元会長の御遺志を受け継ぐことになるのではないかと思います。

札幌支部 顧問司祭 ケン・スレイマン神父「患者さんのケアとスピリチュアリティ」

私は看護師から神父になりました。様々な病気のケアをしていましたが、その中でハンセン病はとても不思議な病気でした。薬を飲んでも、その効果は目で見ることができないからです。良くなったという実感を得ることもありません。ハンセンの病院にいた 24 歳くらいの頃は健康で元気があり、患者さん達の苦しみや、スピリチュアリティと人生の関係をあまり理解できませんでした。

それを学ぶために神学校に入りたいと思いました。スピリチュアリティを客観的に説明することは難しいです。例えば、私達医療専門者が、意識障害のある患者さんに対して、辛そうな気持ちを感じることはできますが、その患者さんが本当に考えていることは解りづらいです。その状況での一番良い原則は、「自分が患者さんの立場になった時にしてもらいたいことをすること」です。患者さんの尊厳を守るために病室を綺麗にし、失禁があればそれに対処します。私達もいつもの自分を作るために、顔を洗ったり、髪をセットしたりします。患者さんが自分でできない身支度をしてあげることもスピリチュアルケアの一部分だと思います。そしてお見舞いに来る家族、友人も関心を持って患者さんのアイデンティティを高めること、私達看護師の態度を見ている家族が、患者さんの尊厳を尊重するようなこともスピリチュアルケアです。



看護学校時代のケン

ハンセン病の看護ボランティア



私達と意識障害のある人は視点が違います。私達は周囲を見渡しますが、意識障害のある人は遠くをよく見ます。天国や亡くなった親しい人を見ているかもしれません。ですから、私達はその意識障害のある患者さんを無理に目覚めさせるよりも、患者さん自身穏やかな気持ちでいてもらう方がいいかもしれません。それもスピリチュアルケアの一つです。その中で、私達は祈りを通してその患者さんの魂とコミュニケーションを取ることが出来ます。私達医療専門職のスピリチュアルケアとしての技術の一つです。その時に患者さんに喜びを伝えることが大切です。

キリスト教にとって死は命が無くなることと認めています、それは同時に永遠の命の誕生日です。私達は別れを寂しく思う時や別れによって泣くこともあります。しかしイエス様の死についての考えは全然違いました。イエス様は、この世を出発することよりも天国に到着することの方に重要性を置いています。天国に愛する人々もいますし、天のお父様が迎えに来ますので、心配することはありません。天国に到着できることは嬉しいイベントです。私達の生きがいです。ですから、私達看護師達が患者さんに対するスピリチュアルケアをよりよく行えるように、自分自身の生きがいやスピリチュアルケアに関心を持つことが最も大切です。どうぞ皆さん、一人ひとりの患者さんのケアをする前に、まず、自分をケアして、その上で患者さんの尊厳を考えてスピリチュアルケアを行えるようにしていきましょう。ありがとうございます。ケン神父より。

◆◆ケン・スレイマン神父 略歴◆◆

米ニューヨーク生まれ。7人兄弟の4番目 血液型 B マイナス
Shadyside Hospital Nursing College (University of Pittsburgh) RN 卒業
ニューヨーク市 Sloan Kettering Cancer Center で看護師として勤務
韓国の国立ハンセン病病院で看護師として勤務
韓国のソウルカトリック大学神学部を卒業し同学部の大学院に進学し、米のメリノール大学院神学部修士課程に転籍し卒業、神父となる
メリノール宣教会の神父となり、福音宣教のため日本に派遣される
アメリカのセントルイス大学院ヘルスケアエシックス学部を卒業
Universita Regina Apostolorum (Roma) 生命倫理修士卒業、同学部博士課程在籍中
現在、天使大学教員(看護学科)とカトリック円山教会の主任司祭



ケンがママに祝福

支部活動☆短信

<p>◆札幌◆ 支部長 佐藤昇子 6月に恒例の天使大学大学祭でのバザー参加を終えました。 今年はカトリック医師会主催の学生セミナーin岡山に6名(大学持ち)を、また8月22・23日の『カ障連』札幌大会にも参加を勧めるなど、看護学生たちへの布教活動を積極的に進めています。</p>	<p>◆仙台◆ 支部長 古関睦 会員の高齢化、介護等で、中々集まる事が出来ずにおりますが、8月にはスペルマン病院のホスピスラウンジにてエメ神父様のお話と祝福、ギター演奏による「マリア祭」を行います。年一回の会員、病院の職員、ボランティアの交流の場です。東松島の被災地支援は続けます。</p>	<p>◆新潟◆ 支部長 大瀧久江 5月31日、柏崎教会・長岡地区信徒大会にて私達カトリックナースも集い、分かち合いの時間を持ちました。菊地司教様によるミサに与り、三位一体の神様に導かれた一日でした。また、8月の小中学生夏の合宿(妙高)では3人のメンバーが救護班で活動します。</p>	<p>◆東京◆ 支部長 西村晶子 JCMAの勉強会に積極的自由参加をしています。6月のテーマは「認知症の新しい考え方」でした。支部から役員が2名参加。参加者色々、楽しい会でした。 8月29日は支部総会です。平和への希求を掲げて、広島大会でお会いしましょう。</p>
<p>◆横浜◆ 支部長 井坂玲子 役員会で近況が定かではなかった水野元会長のお名前が良くきかれています。 このたび訃報に接し、悲しみのうちにもご功績特に看護教育全般にわたっての情熱を改めて認識しました。元会員とともにご冥福をお祈りします。</p>	<p>◆名古屋・名古屋G◆ 支部長 南原摩利 毎月の例会の他に年一度小巡礼を企画。 今年は6月13日、松浦悟郎新司教様の着座式に参加した後、暮林神父様含む10名で金沢に向かいました。 リニューアルした金沢の聖霊病院を見学後、金沢グループ会員の方と交流会を持ちました。金沢Gの三上神父様もご出席下さり、自己紹介をしながら親睦を深めるよい機会となりました。例会ではCICIAMS倫理ガイドラインを輪読し個々の看護を分かち合い学ぶ場となっています。</p> <p>◆金沢G◆ 宮村千草</p>		<p>◆京都◆ 支部長 西川加之子 顧問司祭が福岡神父様と決定しました。神父様は医師会の顧問も兼務されます。アジアカトリック医師会総会に向けて医師会と合同の支部会を5月に実施しました。8月の定例会は来年度の計画活動計画立案。着実な活動ができる土台作りをしたい。</p>
<p>◆大阪・大阪G◆ 支部長 向井定子 7月の釜ヶ崎ボランティアにじゃがいもを持参しました。サイズは大・中・小とさまざまに個性豊かな姿は愛嬌がありました。 四季折々に野菜を届けてくださるシスターはこのような形でボランティア活動をして下さっています。</p>	<p>◆姫路G◆ sr.川口百合子</p>	<p>◆広島◆ 支部長 山口郁乃 会員2名が今夏もフィリピン、ギバン村のメディカルミッションに参加します。 「被災地支援・福島の子を招く関門保養プロジェクト」に交代で3名参加します。 全国大会が主のみ前に意義あるものとなるよう祈りつつ、参加お待ちしております。</p>	<p>◆高松◆ 支部長 藤田芙美緒 台風一過の7月19日、教会学校の日帰りキャンプに救護班として参加しました。 神様のお恵みの中、救護班の出番はなく、子供たちと蕎麦打ち体験をし、うどんのような太い蕎麦に舌鼓うち楽しい時を過ごしました。感謝!!</p>
<p>↑ 重要なお知らせ — 会員期間更新迫る!!</p> <p>会員期間は 9/1 ~ 翌年 8/31 です。 お早目に最寄りの支部でお手続きください。</p>			
<p>◆福岡◆ 支部長 牧山幸二 支部例会は5/10と7/12。ジョンソン神父様をご準備くださった動画を見て分かち合い。 5/23は別府市で1泊2日の近隣支部との合同黙想会。「私たちをあなたの平和の道具にしてください～恵みに気づき、仕えるものとなりました～」のテーマで学び、分かち合いました。</p>	<p>◆長崎◆ 支部長 大山久美子 長崎支部の顧問司祭が7月から川口昭人神父様に交代致しました。神父様は、長崎教区内で人権委員会、難民移住移動委員会を担当されています。 神父様と一致して、また新しい気持ちで励んでいきたいと熱意を新たにしています。</p>	<p>◆大分◆ 支部長 阿南幸子 5月の合同黙想会には16名が参加。パストラルケアの第一人者である川口神父様を迎え、実り多い会でした。 7月25日はペトロ岐部殉教祭に救護で参加。長崎出身の坂本神父様による「信徒発見150年、今教会と信徒に問われる事は」の講演に感動。</p>	<p>◆鹿児島◆ 支部長 松村精子 会員が発起人として立ち上げたNPO法人「聖の郷ゆらいあい」。信者の方々の協力のもと、終の棲家を目指して2011年より運営してきました。施設設備と経済的事情から本年3月をもって閉園いたし、月2回のミサ、食事会、集いを続けることに。挫折感にめげず、前進です。</p>

6/20 (土)	第1回日本カトリック医療 団体協議会 運営委員会	・会計報告、監査・事業報告 ・各団体が主催する事業について 他	聖母病院(東京)
8/28 (月)	第5回本部役員会	・会計監査、広報、規約、総会準備 ・報告書書式、広報、会費納入状況 他	磯子教会
8/28 (月)	JCNA 通信第18号発行	・水野しづ元会長追悼 特集	—

ホームページ紹介 ～2009年に開設されたホームページが新しくなりました～



トップページ: 大きな「麦」の写真は、井深八重初代会長が愛された聖句「一粒の麦」をイメージしました。

背景色: 白を基調にしました。

配色: JCNA のロゴマークから、青・緑・オレンジを採用しました。

内容: 活動報告や各種情報を更に構想中です。

Twitter



情報発信ツール「ツイッター」: ホームページの左端に、SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)の一つ、ツイッターを設置しました。ツイッターは、約3億人近い利用者を持ち、フランシスコ教皇も日々使っておられます。

ツイッターは電光掲示板やテロップに似ています。140字以内のお知らせが簡単にでき、写真も載せられます。ツイッターで発信したい告知内容は、広報担当までご連絡ください。



会員同士が情報を共有し、絆を強める ホームページをめざしていきます。

編集後記

東京大会で「屋久島の縄文杉」についてスピーチをされた嘉松紀子様(カサキキコ)が7月にご帰天されました。神様のみもとで安らかに憩われるようお祈り申し上げます。

ナースから神父になられたケン神父様のご経歴…どこかで聞いたような。そういえば故シスター寺本からも「徹底的に“看護”をしたから修道院に入った」と伺ったことがあります。スピリチュアルケアはカトリックナースの“要”と強く感じました。

夏が過ぎるといよいよ全国大会間近。次号通信はクリスマス頃発行の予定です。

JCNA 通信第18号 2015.8.28 発行

- ◇会長 西村晶子 ◇副会長 井坂玲子
- ◇書記・広報 西久保秀子
- 広報メール jcna-honbu@outlook.com
- ホームページ http://www.jcna/info
- ツイッター https://twitter.com/jcna_honbu
- ◇本部事務局・会計 平田初枝
- 〒179-0082 東京都練馬区錦 2-22-20-404
- 電話/FAX 03-3937-1073
- 事務局メール joanna.de.arc@nifty.com
- ◇本部顧問司祭 飯野雅彦(カトリック磯子教会)